

京都教育大学附属桃山中学校

〒612-0071 京都市伏見区桃山井伊掃部東町16番地

Phone : 075-611-0264, Fax : 075-611-0371

Email : momochu@kyokyo-u.ac.jp

HP : <http://www.kyokyo-u.ac.jp/MOMOCHU/index.html>

I. 立地環境

学校所在地、伏見区は桂川・鴨川・宇治川など京都市地域のほとんどの水系が集まっている。また、疏水などの人工河川や地下水などの水環境も豊富で、「水」が伏見のイメージとなっている。江戸時代、淀川の水運が「京都の玄関口」伏見港を繁栄に導き、地下からわき出る水が伏見の名酒を造り出した。伏見区の人口は京都市11区の中で最も多い28.3万人。学校は桃山丘陵西部の旧伏見市街地にあり、京阪本線・近鉄京都線及び市営地下鉄烏丸線・JR奈良線が通る交通の要衝にある。この地域は、南部最大の商業集積を有し伏見区の中核を形成している。旧伏見市地域は、街道筋や城下町・社寺の門前町として形成されてきた。そのため多くの史跡があり、本校の所在地名「井伊掃部東町」も、井伊掃部守(いかもんのかみ)の邸宅跡から由来している。学校の北には伏見稲荷大社や藤森神社があり、東には伏見桃山城や桓武天皇陵・明治天皇陵の森が広がる。「総合的な学習」や課外活動・教科の発展学習など、多様な調査活動を展開するのにふさわしい地域といえる。



II. 沿革の概要

- 1947年(昭和22年) 京都師範学校女子部附属中学校発足
- 1951年(昭和26年) 国立学校設置法改正により、校名を京都学芸大学附属桃山中学校と改称
- 1966年(昭和41年) 国立学校設置法改正により校名を京都教育大学教育学部附属桃山中学校と改称
- 1975年(昭和50年) 帰国子女教育学級開設
- 1997年(平成9年) 創立50周年記念事業実施
- 2004年(平成16年) 国立大学の法人化にともない大学附属となる
- 2007年(平成19年) 普通教室棟(北校舎)耐震改修工事
- 2010年(平成22年) 特別教室棟(中・南校舎2階)耐震改修工事

III. 性格と使命

(1) 附属学校としての性格(設置目的)

本校は国立大学法人京都教育大学の附属学校として、大学と共同して教育の実証的研究などをおこなうとともに、大学の行う実地教育(教育実習、観察参加研究)などの教員養成に関する教育活動に協力するという使命を持っている。また、大学とともにその教育研究活動等によって地元の教育に貢献することを求められている。

(2) 特別な使命

本校には一般学級とともに、帰国生徒教育学級がある。帰国生徒教育学級は、海外から帰国した生徒で、滞在国との教育事情の違いによって、教育上特別な配慮が必要と思われる生徒に対して、特別な指導とその実践的研究をおこなうことを目的としている。また、その特別な指導に関する研究を充実するため、特別枠を設け、日本語指導を必要とする外国人生徒の受け入れを試行している。



本校は、帰国生徒受入校として、学校を挙げて国際理解教育の推進にも取り組んでいる。

IV. 教育目標と教育活動

(1) 教育目標

豊かな感性をもち、周りに関わりながら自己を伸ばす生徒の育成

(2) 基本方針

生徒一人ひとりの個性を尊重し、豊かな情操を培うとともに、社会や人との関わりの中で主体的に学ぶ生徒の育成をめざす。

(3) 教育活動

本校は、平常の授業を充実させ、確かな学ぶ力と豊かな人間性の育成を目指している。また「豊かな感性、輝く個性、広がる共生」を合い言葉に、生徒一人一人に活躍できる場があり、その活躍を認めあえる仲間がいる学校づくりを目指している。次に、本校の特色ある教育活動を2つ紹介する。

○総合的な学習の時間

本校の「総合的な学習の時間」は、「MET：異学年混在型発展選択応用学習」「ION：学年進行型情報教育学習」「共通必修：学年進行型(環境・国際理解・福祉健康・生き方)学習」からなる。それぞれに、主体的・創造的な課題解決能力としての自己学習力の育成に努めている。

<MET>：本校の「総合的な学習の時間」の中心をなす教育活動で、2,3年生が学年の枠をはずし、地域を生かし、さまざまな人と関わりながら、自ら選んだコースの中で、主体的に課題解決型の学習を展開している。「MET」という呼称は、元は「Momoyama Explorers' Time」から由来しており、生徒たちが「学びの開拓者」として、「新しい形の学び」に取り組んでいる。なお、1年生では、「PreMET」という時間を設け、地元伏見をフィールドにして、課題設定のしかた、調査研究のしかた、研究成果のまとめ方や発表のしかたなど、課題解決学習の基礎を学ぶ。



<ION>：この時間は、コンピュータ教室を使い、コンピュータの基本的な機能(ワープロ、表計算など)の使い方から始め、インターネットやメールの活用に関する学習を経て、プレゼンテーションの方法や、ホームページ作成の基礎までを学ぶ。なお、この「ION」は、Information、Communication、Presentationの語尾をとって名付けられた。



<共通必修>：共通必修は、生徒全員が「環境」「国際」「福祉・健康」「生き方」などの課題に、学年・学級の時間に取り組む総合的な学習のことである。「環境」では、3年生修学旅行に関わる沖縄の自然、1年生湖畔

学習に関わる琵琶湖博物館の展示学習、学級菜園の取り組み、「国際」では英国中高生との交流会、留学生との交流会、「福祉・健康」では、障害者福祉、薬物乱用防止についての講演などの学習を行っている。また、「生き方」の学習では、従来からのキャリア教育に加えて、社会体験活動を通して自己理解を深め、社会との相互関係の中で自分らしい生き方を展望し実現していくことをめざした職場体験学習もおこなっている。



○環境教育

北校舎は教室の室温上昇抑制のための屋上緑化、中校舎周辺は雨水散水栓の設置、南校舎屋上には太陽光電池パネルの設置など、環境に配慮した校舎が並ぶ。また、生徒会活動を中心とした緑化活動も盛んであり「全日本学校関係緑化コンクール(主催 国土緑化推進機構、後援 文部科学省・農林水産省など)」で、国土緑化推進機構理事長賞を受賞した。



(4) 特色ある学校行事

本校には、「文化祭」「陸上競技会」「球技大会」「鑑賞教室」「校外学習」などの行事のほか、総合学習の成果を発信する「MET発表会」、国際理解の取り組みとしての「留学生との交流会」、それに「人権月間」「環境月間」に関わるさまざまな取り組みが行われている。また、各学年の宿泊をともなう行事としては、以下の行事がある。



- ・1年生湖畔学習：琵琶湖畔で環境学習を中心とした1泊2日の宿泊学習を行う。
- ・2年生スキー教室：長野県白馬八方で3泊4日のスキー教室に参加する。
- ・3年生修学旅行：3年生は沖縄で平和学習と現地を生かした体験活動を3泊4日で行う。



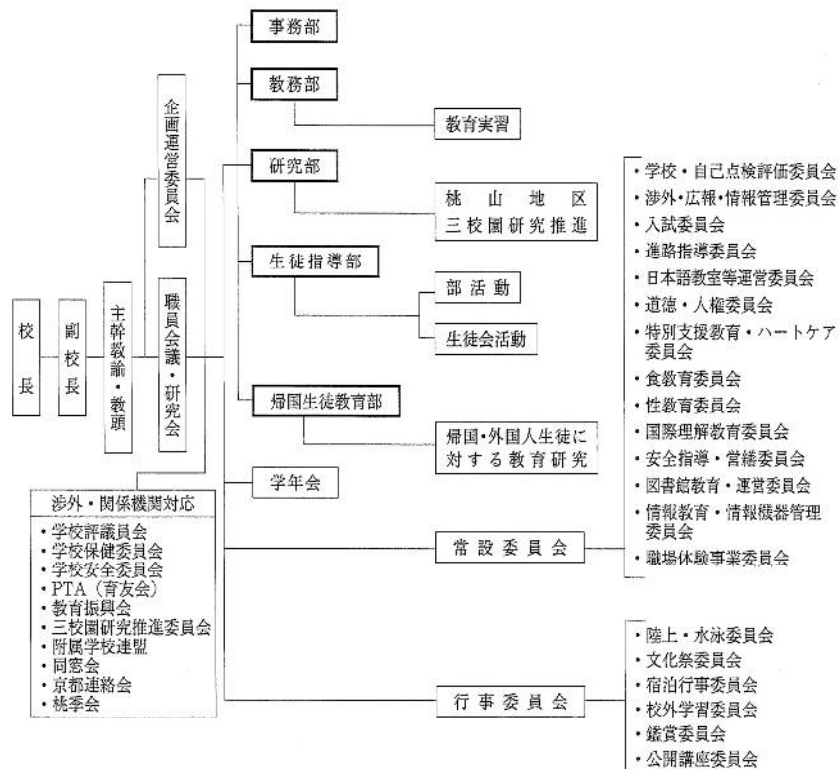
V. 教育組織と施設設備の概要

(1) 学級・生徒・教員数

●学級 生徒定数	学級数		生徒定員	
	一般学級	帰国学級	一般学級	帰国学級
1年生	3	1	120	15
2年生	3	1	120	15
3年生	* 4		120	15
小計			360	45
合計	12		405	

* 3年生では両学級生徒の混合編成を実施している。

(2) 校務分掌組織表



●教員数

常勤 26名

非常勤 6名

(英語科外国人講師
1名と日本語指導講
師1名を含む)

(3) 施設設備

- ・体育館(2階建,延床面積 1760 m²)・多目的室(体育館 1 F)・プール・グラウンド・屋外テニスコート
- ・社会科教室・理科室(第1, 第2)・音楽室・美術室・家庭科教室・図書室・保健室
- ・コンピュータ教室・GWS教室
- ・木工金工室・製図室・カウンセラー室・交流教室・授業研究室・実習研修室・自習室2室など

[特別教室棟(中校舎・南校舎)は、平成 21 年度に耐震改修工事をおこない、最新の実験機・壁面作業台を備えた2つの理科室、12 台の IH 調理台(被服実習台兼用)を備えた家庭科教室、机・椅子をすべて新調した使い心地の良い美術室、充実した音響設備を備えた音楽室に生まれ変わり、快適な学習環境が整った。パソコン教室も改修を終え、48 台の真新しい機器に入れ替わっている。もちろん全教室、デジタル TV・プロジェクター・空調を完備している。一足先(平成 19 年 3 月)に耐震改修工事を終えた普通教室棟(北校舎)の屋上には緑化を施すとともに、中庭・花壇には雨水再生水利用の散水栓を付けている。南校舎でおこなわれている太陽エネルギー利用(太陽電池パネル)を加えて、環境に配慮した先進的な校舎が並ぶ。]



VI. 研究実績と今年度の研究計画

(1) 附属桃山地区学校園(附属幼稚園、附属桃山小学校、附属桃山中学校)の幼小中連携研究について

本校園の幼小中教職員は、幼小・小中の異校種間でとぎれがちであった子どもの発達の連続性を円滑につなぎ、幼児・児童・生徒が今までに出会ってきた学習内容や今後出会うであろう学習内容を異校種間で共有し、互恵的な学びのある連携プログラムとして作りあげていく研究を進めてきた。そして現在、学習指導要領改訂等で明確になった「生きる力」の育成、バランスのとれた知識



・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成、豊かな心や健やかな身体の育成など、「新学習指導要領の理念をふまえた上での、子どもが相互に学び合う姿を追求した連携研究」「発達の連続性に応じた保育・授業の展開」を課題にして研究を行っている。



平成 21 年度からは、「活用力を高める教育プログラムの開発」というプロジェクトテーマのもと、『自らの考えを広げ、深める子－互いの考えの伝え合いを通して－』を研究主題にして、コミュニケーション力や表現力などの活用力を高めることを目的とした実践研究に取り組んでいる。これは、新幼稚園教育要領・新学習指導要領の基本方針のひとつである「思考力、判断力、表現力等の育成」に対応したもので、その基盤となることばの能力を育むことに焦点をあてて、研究をおこなっている。

平成 23 年 2 月には研究発表会をおこない研究成果を報告した。当日、全体会で研究概要を基調発表した後、幼小中交流授業や中学校教員の小学校への乗り入れ授業などを公開し、異年齢の子どもが関わり合い学び合う場をふくむ学習プログラムについての報告をおこなった。

●研究の構想

教育目標	「明日の文化を担う『ひと』の育成」	
めざす子ども像	「自立と共生の力をもった子ども」	
育てたい力	未来に生きる 「確かな学力」の育成	生活を切り拓く 「豊かな社会力」の育成
研究の基盤	子どもの側から教育を発想する	



(2) 帰国・外国人生徒教育、国際教育

附属桃山中学校帰国生徒教育学級は、昭和 50 年 4 月に開設された。その特設学級の教育の趣旨は「適応教育」から「特性伸長教育」へと転換され、現在はそれに加えて「相互交流の教育」を柱に、日々の教育活動に取

り組んでいる。

<帰国・外国人生徒教育の主な活動>

- ① **日本語教室** 日常生活言語が日本語ではないという生徒や日本語で日常生活を送れていても学習の場で日本語の支援が必要な生徒がいる。本校では週 2 回、放課後に日本語教室を設けて、教科学習を一部含む日本語学習の支援をおこなっている。
- ② **中国語教室** 中国語を学び続けたい生徒達のために、中国から来日している本学の留学生を講師に招き、週 1 回中国語教室を開いている。日本では中国語を学ぶ機会が少ないため、生徒達は意欲的に学んでいる。
- ③ **帰国学級合同スピーチ発表会** 海外での多様な生活体験から、多文化や人権、人としての生き方など、さまざまな課題を自らみつけ、日本語で作文し、スピーチする活動である。ひとりひとりの発表が聴衆の心を動かし、発表者にとっても自己を見つめ直す良い機会となっている。



<国際教育の主な活動>

- ① **国際交流** 英国シェフィールドの学校とは、本校の体験入学生の進学先高等学校という縁で、平成 16 年から親交を深めている。日本への修学旅行の際に来校いただき、授業を共にしたり伏見探訪にでかけたりして交流を深めている。
- ② **留学生との交流会** 1・2 年生は、毎年いろいろな国から留学生を迎えて交流会を開いている。クラス毎にテーマを決めて討論をおこなったり、外国から見た日本の文化や習慣について思いを聞き、日本の文化を再認識する機会にしている。

VII. 地域社会への貢献活動

<研究成果の発信と共同研究> 学校の研究成果を広く発信することにより社会貢献をしている。

<国際教育支援活動> 本校は、地域における国際教育支援に関わる人たちの研修や情報交換の場を提供している。

<桃山オープンセミナー> 年に 2 回、公開講座を開催し、生徒や保護者とともに地域の方々にも参加いただき、教養講座として利用いただいている。